史料紹介

土右記

延久元年夏

解題及び例言

土右記は又土記・土御門右府記・源右丞相記等の名称で呼ばれる源師房の日記である。その内容は御産部類記、元秘別録、改元部類、東宮御元服部類記等に引用されている僅かな逸文による以外、全く明らかにされていない。こゝに紹介する延久元年夏の日次記は、旧九条家蔵本から発見されたもので、古来俊家公記と誤認されていた。所収月日は四月十三日の条の途中から六月二十七日の条に至るまでの、首尾を欠く僅か二ケ月半許りの記であるが、現存唯一の伝本として本記の全貌体裁等を知る上に不可欠の史料である。なお本書の首部の欠は「改元部類」（続群書類従巻二八〇）により補足することができる。

本書は縦約二八・四糎、横四八・二～五二・七糎の楮斐交漉の紙二十六枚（本文）からなる巻子本仕立、天地に各一本の墨界線があり、（界高二十五糎前後）、本文はこの界内に記されている。一紙に二十二～四行、一行二十字前後、鎌倉初期の書写と考えられる。なお、織豊時代末の筆と思われる首附がある。また巻首本紙以前に「延久元年夏右大臣俊家公記」（旧包紙の断片）、「延久元年四月十三日」（旧仮表紙の断片）とある当部後綴の二紙を有し、これらは巻末の識語とゝもに九条道房の筆と考えられる。本文にはすべて江戸初期（九条道房の時代）とおぼしき裏打補修がほどこされている。表紙は鉄色無地絹布、題簽、桜切軸共に当部の後補に係る。なお、本書は昭和三十二年十二月に当部より覆製版行（コロタイプ）されている。

著者源師房は、村上天皇皇子具平親王の王子、母は為平親王の王女。本名を資定と云い、関白藤原頼通の猶子となり、寛仁四年一〇二〇従四位下に叙せられ、同年元服源姓を賜り、師房と改名した。所謂村上源氏の祖であり、藤原道長の女尊子を妻とし、藤氏とも密接な関係を有する。和漢の学に通じ、和歌をよくして歴代勅撰集にその作品を残し、叙位除目抄（散佚）の著書があり、その子に堀河左大臣俊房、（その日記水左記の一名も土記と云い、父師房の本記と屢々混同される。）六条右大臣顕房等がいる。承保四年一〇七七に歿し、享年七十と云われる。

一、原本では、一紙毎に張付を示す和数字を附しているが、これを省略し、紙の終りに」を、紙の継目上にある文字は「　」を附した。

一、編者の注はすべて（　）を施した。（平林盛得）

（表紙題簽）
土　右　記　延久元年自四月至六月」

（旧包紙断片）
延久元年夏　右大臣俊家公記」

（旧仮表紙断片）
延久元年四月十三日」

（本文端裏）
延久元年夏俊家公記」

（四月十三日、首欠）

大極殿行事弁伊房處勘事□用見仕弁隆□

今有御物□（忌カ）□令申右府（師実）明日

大極殿始葺瓦□（行カ）事伊房朝臣處勘事、只今見仕弁隆方・

正家此旨明日事、可令誰行哉、又以事検（行歟）非違使平季平處勘

事、又可召誰人哉、還来云、弁事早可奏、検非違使暫不可奏

者、託匡房奏此由、仰□弁両人間、假可令□□事□

奏□（無カ）仰□方朝臣、仰明日事、可行由□□

年号定事

可俊家可能長卿中納言□□季卿参議

□旧勘文写宿□□資仲卿□長□匡房来□□

□取之授右府□□

□朝人々依御物忌写□□

□以正本下之云々　授右府一□□徳・延久・喜徳・実政朝臣□

人々□□事（何、以カ）

承保・成徳・正家、申□□久・嘉徳・成徳等如□□此由令奏、仰云、

所申三ケ□（中カ）可用何乎、皆申云、延久何事候哉、但右大（経信）弁申

右大弁申云延久説文称伝者若可用歟

云、説文称伝者若可用注歟者、令奏此由、又仰云、右大弁

所申如何、余申一端可然、但忽難引先例、倩思給何事候乎、

先之所引書不必全経三史文歟、然則経家書注文何事候乎、

可用延久事

仰云、依所申可用延久□□此由、右大臣退出、其後余移外

右府退出予移外座奉行詔書事

座、匡房来云、暫不□草詔、先以延□号由、遣仰左大（教通）

臣、返報之□」□作之者、但無□召遣在里第、蔵人時

□早出大臣候之時□

綱云々、此由大納言（間歟）信□退出、只宮内卿（経長）及参議四

人留候、先之□出者也、末代之事多以如此、

□内卿一人僅存古風□

世及澆□歟世間作法可憐者也、宮内卿僅存古風、

良久匡房来、仰可令作詔由、召大□記成季仰此由、頃之進

詔書有勅一両度被改事

詔草、奉内覧、還来□匡房奏之、有勅一両度有所改、清書

奏之、今度依左府御消息（大内記伝之）、不奉内覧、有御畫、召外記、

匡房下日吉社祭幣料宣下事

々々広宗進小庭、仰□召中務少輔、々々小輔公経就膝突、

給詔書退出（入筥給之）、次匡房下日吉神祭幣料宣□召右中弁隆方朝

臣、々々下伊豫國年料解文、須奏聞云、件未□

宇治殿御賀発

□免了、又下同弁了退出、□自右府被□□胸

発御、然而無幾□云々、仍明日□

大極殿瓦葺始予雖為行事不参□

十四日、庚戌、晴、大極□瓦葺始、余雖以事行戌夜部不参、□

予不参由以随身觸假行事右中弁隆方朝臣事

催参民部卿俊房家・宮内卿経長為行事也、余不参由、以随身近衛

小安殿昭慶門等今日立破風之事

忠友令觸假行事右中弁隆方朝臣許、小安殿昭慶門等今日立

同事不勘日時事

破風、別不勘日時、只以吉日所行、道平申今日吉由云々、

隆方朝臣来語大極殿子細事

未時許□中弁隆方朝臣来云、大極殿瓦葺始了小安殿昭慶門□

破風葺瓦者也、行事大納言俊家・中納言経長・修□夫資

行事宰相奏憲恐□

仲□奉仕已了、行事宰相□有恐懼□

自此□申此由於左□府カ又可奏聞□匡房奏之、

於関白第勘立太子日時□

依先日仰也、後聞、今日於関白第令勘立太子日時来廿八日甲子、

右中弁隆方朝臣書定文之事

定爵禄等事、即付匡房被奏之、右中隆方弁脱朝臣書定文云々、

藤大納言一人候同座他人不参之事

陰陽師道平勘日時云々、藤大納言俊家マンの許、他人不参会云々、

十五日、辛亥、晴、去夜南方有火、人云、関白殿近邊□、仍

関白殿近辺炎上事（脱アルカ）

乗車馳詣、遣令見極、来会云、五条坊門富小路近江守憲輔

朝臣両者自途中帰来、今朝人云、長門前□俊基家云々、

十六日、壬子、□右中弁隆方朝臣来云、去十□四日修

修理職申昭慶門瓦□事

理職申□檜皮事、依予命申関白教通之處、御返云、只

相□可計行者、答云、重令問彼職之後、可仰左有也、又

（去カ）云十四日立太子定等事所談也、弁帰之後、治部卿隆俊入座、

去正月侍従雅實元服之後、今日入来、被語云、両今所労頗

雖宜、猶未復尋常、仍未出仕也、

天下漸愁旱之事

十七日、癸丑、晴、此一両日雖有燠気午上猶寒、天下漸愁

旱云々、依去月霜桑柘枯萎蚕養不得云々、今日後一条院御

為議定大極殿事召□

國忌也、御葷壇□時許匡房来、傳仰云、今日可参者、

大略□非廣、只大臣許候御前、可有議定云□

仍無□云々、

実綱朝臣令見被施入御□

十八日、甲寅、今日□事花始開、陰、午時許實綱朝臣来、

令見中宮被施入紫檀唐匣調度一具於平等」院状、予見云

々、□後匡房来云、可参之状、令申参入由、臨昏参入、途

参陣俊子内親王叙二品

中秉燭、須仰外記可参候、又令催内外記等、宰相能季卿、

良基卿参入、皆依催□着左丈座、以匡房令奏参入由、有問

仰云、以俊子内親王斎宮可叙二品者、乃移外座、此間主殿寮

主殿寮来参以随身挙燎事

未参以随身挙燎、□掌燈史敗未進、与両参議□議、且令進外□記

掌燈遅々間宰相等遅敗□参議□邊□事

□燈返々、仍以燈火官人令送宰相邊□俊子

内親王年号書□以河屋希書之、納内□返給、下少内記敦

基仰可成位之由、欲起座間、匡房来□記敗河内前守廣経

匡房下諸國申請文書等事
申請一条、佐渡守重弘申三ヶ条、長門守三ヶ条事、定文各
有仰詞、具目録、又云、暫不可出、有被仰事先遣仰右府、
其後可被仰也者、起座、参院御方（馨子）、良久之後匡房来、下
大極殿龍尾道上両楼并廊等令丹波守高房可造営事
大極殿定文云、龍尾道上両楼及除昭慶門、其外東西北三面
并各廊等、可令丹波守高房営造、自余門廊等追□仰下者、
次□□日臨昏黒、漸雨如流、人云今日依旱愁□□
験云々、
先朝周関御正日法事
十九日、乙卯、□□（先）朝周関正月御法事也、午剋（日歟）参
御堂、新堂□午後□亘、申剋以後風吹雨止、午時許参御
堂、先之右府・大納言（隆國、俊家）、宰相中将宗俊参入、女房候西廊、
于時分七僧法服、敦家朝臣云、法服一具未進、為之如何、
美濃前司師良朝臣所課云々、右府相□仰」参可催之由、良
諸僧無集会所着堂座事
久持参云々、未終許僧参具云々、右大臣以下着饗座、衆僧
威儀師依勅不参以當寺所司令行事
無集会處宜着堂座、威儀師依勅不参、以當寺所司令行之云
右府殿御衰日予自身衰日仍不着堂前座事
々、右府（殿御衰日）・余自身（并御衰日）、仍不着堂前座、源大納言以下
民部卿・小野中納言（祐家）・前大貳（師成）・宰相中将□（宗）俊・□（右）大弁
顕房卿又依余衰日不着座
（経信）着座、左□□督顕房以余□□七僧導師権少僧
都良秀、讀師同広□□三礼同良真、唄法橋兼秀、
散花同□□闇梨暹教、題名僧六十口、御等身阿弥
陀三□、金泥法花経・墨字法花経五百部（御法事五百内）、本院上東門
左府依祭以前并物忌不参事
院及余不修之、以祭以前及□也、□被修云々、
本院及上東門院有布施事
□□以前并物忌不□云々、講了行香之後、本院及上
東門院有布施、□納言以下取本院布施、□（等）取上東門
右府予左兵衛督等不立行香又不取布施事
院布施、右府余等不立行香、不取布施、左兵衛督（顕房）同之、布
施了後僧等退出、右□□不例由、退出、其後周関間、
毎月御念仏結願事
毎月御念仏□□師念仏僧留勧此事、但□（仁）和寺僧正
仁和寺僧正律師□
□本院布施、大納言以下取之、皇后宮□□、
長日御讀経結願之□
次余以下退出、長日御讀経同結願云々、人□□歟、
廿日、丙辰、早朝雲、漸雨間灑、巳時以後晴、西詣関白第、
詣関白第定立后諸國所課等事
定立后間諸國所課、右中弁隆方朝臣執筆、去七日初定此事
去七日大略定此事仍今日不擇日吉凶事
大略許也、今日不擇日吉凶也、午時右中弁隆方来、去「夕□
□□両楼□」廊、可令丹波守高
房営造之由、藤大納言（信長）・民部卿□（俊）家・左兵衛督（顕房）会、被菓
子湯漬、入夜事了分散、彼院別當基貞朝臣参會、此間匡房
為御使参左府被奏、彼間被物紅色之□□非指事者、
不被用何事有乎、仍不□□（也）□、

別當俊房可出仕之由□
廿一日、丁巳、□浴殿間、不逢謝遣、□時許自
関白殿給□柑子一盛、晩頭別當俊房送消息云、頭中将基長造送
可出仕之由、而日来有所労、不罷行之上、今明日以不宜為
之如何、答云、令申恐奉由、以此趣可□達彼中将、
廿二日、戊午、晴、天明未弁物之間火、云南方□皇太
皇太后宮御近邊炎上事
后宮近邊云々、急参、先新大納言能長・宮内卿経長・中納言祐家・
左兵衛督頭房参入、立庭中相議昇着對南□(面)、是故大蔵卿師
□条坊門云々、去宮南一許(マヽ)、暫右大臣・藤大納言信□
御禊見物事
□今日斎院禊也、晩頭蜜々女車見物行事□
弁正家率外記惟宗義□大夫史孝信等、先渡□(前駈)(使)
次第使如先日定、但次第使祐康暗跡逃去、仍以右馬助重資
被差定、長官平昌綱過差禁制、尤前駈雑色五位六人、六位
四人、斎院車女房衣五領、無上衣打衣等、又車部無金物、
只有簾懸張還付許云々、
廿三日、己未、自夜雨快下、晩頭雨止、東南虹見、
俊房卿所労并恐懼之後初出仕之事
「廿四日、庚□(申)、□(朝)別當入来、所労」并恐懼之
□参内云々、新大納言被請祭使出立所□
明日祭使彼大納言長男頭中将也、仍有此請也、時々臨事所
被請也、申時許隆方朝臣来云、高房朝臣申云、蒼龍白虎両
楼可立日、来廿八日吉由陰陽師所申也、即可承案内者、答
云、早申関白□(可随)其左右也、晩頭隆方朝臣又来云、左右□
可立蒼龍白虎楼日先高房朝臣奏聞不快事
許可被行大略、高房先経奏聞不快歟、答云、尤理也、然而
左大弁泰憲厚免事
不可黙止、重可被案内之後、可奏聞也、又語左大弁泰憲随
依宣旨検非遣使家宗向蔵人□打破車事
厚免云々、月来雖無指仰、依天気不快不出仕云々、昨日
□違使家宗向蔵人源時綱家、彼打車御□
簾也云々、
廿五日、辛酉、□此日賀茂祭也、先日勘□國中申、
自一宮狩衣装束一襲被贈右府若宮之事
仍今日當下酉云々、申時許依御消息自東殿、従一宮被贈
右府小僕狩衣装束一襲事也、使中宮少進知家、自宮蜜々向
祭物見事
見物所、東洞院西邊立車、経数剋始渡、斎院出車間、臨昏
不辨物色、山城介中原重則□寮権□右府、権
近衛使基長朝臣雑色被許打衣事
中将藤基長朝臣雑色十二人被許打衣、内蔵寮助藤資経各雑
同車無金物網代事
色六人、頭中将車無□棄自余上下悉如之、女使等
不見、臨暗□
廿六日、壬戌、自□(朝)□左大弁来、去廿日可出仕由、有天
気者、来廿八日可参内也云々、今日不見物」

廿七日、癸亥、晴、午時参内、□召御前畫御座、奏請明日立太子
間雑事等、宣命時、未若申云々、明日卯時一宮出給閑院、
依立太子事也、奏可明(日脱カ)参候之状、申時許退出、欲乗車之間、
右府被参暫立留談話、各参退出、
立太子事
廿八日、甲子、天顔快晴、此日有立太子事今上一親王諱、貞仁年十七、卯時自
卯時自内出大宮亭給事
内大宮第出給、閑院自□前余参入直□、相次人々参、右大
□□直衣参入右大臣以下
臣□下袍宿衣、此中納言宰相間四五許東□
関白依物忌不被参事
憲・能季・宗俊・経信・隆綱等也、関白依物忌不被参云々、
按察大納言隆國・皇后宮大夫経輔・治部卿隆俊各有雖不参其外皆参
冊命事有別記事
入、奉送後人々退出、未時参内、及申剋有冊命皇太子事、
具在別記、
廿九日、乙丑、晴、未時許尾張守憲房朝臣来相逢、数剋帰、
定房朝臣来会、又帰、晩頭春宮亮経平朝臣依慶来相逢、謝
遣、今日余参歟東宮、今月朔之比、上野前司成経朝臣卒、依
□上野前司成経□
□□従故遠理朝臣弟子経多年自三条院御時云々年七十余□
東大寺聖梵入没事
年荒廃、仍八人令奉仕之、然而猶在陪従□、近日東大寺聖
梵入没、年及六十云々、三論宗学生、公私請用者也、
五　月　大
参東宮事
一日、丙寅、陰、申時許参東宮閑院、民部卿大夫(俊家)・左衛門督(俊房)・
左兵衛督(顕房)・小野宮(祈家)中納言・源中納言資綱宰相中将能季・宰相中将
関白束帯被参然而不着饗座事
宗俊・修理大夫□参入、及酉剋関白自「□被参束帯、藤大納言(宿房)
退出之間依召参御前□
供奉、関白被参御前、依可□有盃酌関白不被着此座、秉燭関白(教通)被出、
相次出之間、大夫被告有召由、参□饗同初日二日
関白被儲、今日新院□
二日、丁卯、陰、昨今□(牡)丹盛開、後聞、此日依雨不快、重有
有勅拂神泉池之間雨快降事
勅拂神泉池、自昨日雨快降二日二夜、
三日、戊辰、陰、午時許、参東殿、則参宇治、途中雨下或止
不定、季仲朝臣・章経・仲宗追従、申時許参着、南泉外房當
御浴殿間、下宿所僧正外房浴室、終夜甚雨如泼、
四日、己巳、雨快下、早朝参御所、候御前数剋、申請之中、
東宮壺切剣為躰殿下□
東宮壺切剣□野剣也、鞘蒔絵海図有然形唐鐔(龍歟)□
天皇御璽莒為躰同御語事
□云々、是昔所見也、又天皇御璽筥、黒漆押掩半(方歟)(経長)
蓋也、有鎖矣、其鎰納御剣緒中云々、数剋後出外可、宮内
卿歟
外・右大弁(経信)参會、暫留羞膳、其後言語之間、源大納言(経長)参、
数剋、此間有召御語後、臨晩下宿所、終夜甚雨、
五日、庚午、雨、午時許、別當参入(俊房)、申時許参御堂會

五十講事
講、源大納言・宮内卿・別當・右大弁参會、講師実経、此五
十講□□(月)廿八日被始行、今日當初七日云々、念仏了□
□□、次仰云岐松地先日進歟達奉由已了、至今者□□
昨日荒手結依甚雨将不参□□府生武近来申事
□申也者、入夜退出、今夜不雨、府生身人□武近来云、年
預将家賢朝臣令申、昨日荒手結甚雨並依将不参不行者、仰
云、至于雨」非此限、将不参尤奇怪、慥加催若猶不参可奏
事由、今日必可行也、
帰洛事
六日、辛未、雨止、午後晴、依仰巳時許帰洛、午終着家、去
三日右近騎射荒手結、右近四日可行、而依雨延引、昨日行
之、手結持来、今日左近、明日右近云々、
真手結府生行方持来事
七日、壬申、晴□□(手)結、入夜、府生行方持来手結、見了
返□□朝臣、少将家賢送時云々、兼着馬場、近年四人
□事希有也云々、
大極殿鵄尾土代可見間事
八日、癸酉、終日雲不雨、大極殿鵄尾土代可見之由行事所申
也、而去二日・五日各有雖延引、明日可吉之由、假行事弁
隆方朝臣申之、左府可被参、右府以下人々又可被参者、而
従右府以隆方朝臣被示送云、件鵄尾如風聞、只立板一枚云
々、猶作大底可令儀否歟、猶作鵄尾□□也、答申
云、日来弁称可見由、不申子細、□□事候乎、仍明
日事延引、後聞、今日□東大寺維摩講師宣旨下云々、
九日、晴、未時許参内、候御前畫御座、及晩頭退出之次、詣左
賀茂祭帰立無饗祿之由例奉之日有事次奏之事
府、入夜帰来、有事次奏側承賀茂祭帰立無饗禄事、有不審
大極殿鵄尾過五月可沙汰事
御気色、又被仰大極殿鵄尾過今月可沙汰之由、以□上屋禁
忌也、
十日、乙亥、雨、早朝召隆方朝臣、仰下大極殿鵄尾過今月可
立后間諸國召物過差吉々可尋沙汰由仰隆方朝臣事
沙汰之由又立后間、諸國召物過差有天気歟、早申後殿吉々
可被支□□也、然而有此由也云々、終夜寒雨」
十一日、丙子、雨滂沱、牡丹朔之比盛開、四五日雨漸寒露、
其花花猶可見、今宵雨餘花漸盡、僅所残不幾、入夜匡房来
言談、良久帰、今日右大臣定賑給使、次禄申文云々、
十二日、丁丑、陰、不雨、巳時許伊豫守實綱朝臣来告、来十
内裏近邊宰相中将能季□□□参内事
五日下任國之由□□云、内近邊闘乱刃傷云々、忿企
参入、則与左兵□車参内、此間関白被参、右府先之
被参、相續人々参入、宰相中将能季、自三条坊門北堀河東家侍男共闘諍、
瀧口一人捕得件侍之事
其一人已死了、因玆相殺者又被疵、爰瀧口一人、須在此
庭、捕得件男云々、及未時人々退出、下官又退出、

陣定事
十三日、戊寅、陰、依一昨日外記来催、申時左衛門督俊房相具
参内、是参内是陣定也、先之右大臣(師実)・大納言信長卿・中納言経
(マヽ)
。卿・忠家卿・資綱卿・参議宗俊卿・経信参入、先有去年□
祭主元範弁申去年□事
□其後余着座、以大臣下祭主元範弁申去□二月々
次祭間無穢之由申文、肥前守藤正家五ヶ条事、可定申者、
余可定申文觸右大臣召之随身持来過外座下及進取之奉右大臣是先例事
一々見下之間、余觸大臣云々、可定申文相加如何、大臣有
(マヽ)
許容、令官人召令持随身之文、随身府生武利過外座下、
及進取之奉大臣是先例也、件文三通也一通近江國司憲輔朝臣、申請云々、具
御祈願料及今臨時召物等、今年参期以前暫被停止事、一通
越前守源□条文、一通備後守憲家申計暦事、具在定文、右大
□終頭皇后宮大夫信長被申云、不可定申之文□如
何、觸大臣又有許容、以官人召之、一通造酒司去年山城国・
大和国等御酒白米未進、准」先例分宛諸□事、
一通若狭国司信房朝臣申二ヶ条□庄園事、近江国木
津称勘過料、抑留調□々了退出之間、参院馨子御方、則
退出、于時戌時、
中宮有穢疑由宮内卿被語事
十四日、乙卯、快晴、申時許宮内卿経長入来云、中宮有疑(穢脱)、
同穢間沙汰事
其故者南山鳶落如傷胎者、其體云々不同、是御堂預法師々
弟所見也、師云、物體不知何物、若是鳥鵲歟、弟子云、其
體如児有左右手無足云々、但師云、専無其體白、件法師所
申已虚言也云々、然而件右府已被聞了、其日□
月朔日、或去十一日云々、去夕始披露、然而昨日□参
内、所依流歟布也、仍今朝以宮進公盛令申宇治、御返事云、語
合内大臣相量可申関白也者、為之如何、余思慮難一決、但
以件等説設被申関白自有一定歟、宮内卿云、然者自可参関白
第歟、答云、而被申告歟、但七日、三十日可依彼定也者、
為始十一日及三十日者、宇治一切経會可延歟、殿下頗有欝
憤御気色云々、此間右□持来去夕定文、宮内卿後見
之、良久右大弁□匡房入夜来、付定文、其次語曰、
中宮觸穢□関白殿仰、奏聞七日已一定也云々、
十五日、庚辰、晴、此日請六口僧令轉讀大般若経、為限十
日、毎日一座也、恒例一年二度読経也、良披教歟・行尊・陽慶・
永暹・定秀・永暹(マヽ)等也、今日渡寝殿東面、
十六日、陰、未時許宵雨、有頃止」
式部大輔實綱朝臣持来賀雨詩事
十七日、壬午、晴、巳時許式部大輔実綱朝臣持来賀雨詩和
七言八酌、近曾雨脚之後、万一四歟歓草云々、示左少弁正家朝

臣云、古云、古人哀楽之時以詩抑思者、今年自春不零雨、華夏之愁尤愁云々、金甘附遍放天下歓旺、此時謳歌云々、何時乎可賜一篇辞、謝再三、遂賦一篇以為本、催好事□□□篇、件朝臣一日来向之處、示此詩乞其和□□詠吟之間、自左府有御消息、只今可参會東□、則参入、左府示宣、此両三日不例事御者、如去年御腫云々、数剋之後退出、

東北院此両三日御不例事

十八日、癸未、快晴、午時許春宮権大夫良基来語、次昨日以右兵衛督資仲為検非違使別當宣旨下者、晩頭右中弁隆方朝臣(脱アルカ)未進美濃國先召遣白瓷工二人解文、示可令奏之由返之、相次前大貳師成卿来、左府被参東北院、参御□□之後入来者、言談良久、其中云、小一条□□大臣為三位之時、為男正六位上冬嗣、自當□長手、被買取云々、冬嗣為内舎人之時、参内、到東洞院近衛御門之間、虚中有聲云、暫留聞吾言、應聲暫留、乃示云、指小一条云、買取件地可居住、福及子禄(孫歟)、我又住此邊為汝護、有聲無形、随有怖畏、答云、如只今者無可買取之力云々、其後□□両月又有聲、所示如初、答又同、又若自身□被申厳父也、於是

右兵衛督資仲為検非違使別當之事

前大貳師成卿語小一条事

内麻呂大臣為三位之時為男冬嗣□□長手被買取子細事

虚中有聲示可買取之由事

彼大臣許諾、次問此聲□乎、答云、我是住大和国添上部(マヽ)」及筑前、以此相尋自知歟、又件家傍作吾居所、我必護汝一家、雖我住所々、有可教化洛陽之思也云々、彼社北七八許丈有丘驚人、傳云、昭宣公下蔭時、参内之、有群重(童歟)、捕一狐以杖木打之、於是留車乞請彼狐、乗車後、解綱摩毛、諸獣之中汝有霊者也、救其命了汝必□□也、参内、入待賢門間、作(マヽ)従者令放幽閉□□夢中亭父来云、種類繁多、頗無漸力(術歟)、盡□給一住不殊止火交(災歟)、相公答云、不可給別住所、可為宗像眷属也者、歓悦退帰、其後築此丘給之云々、

昭宣公被乞免狐子細事

十九日、甲申、晴、未剋参法成寺、故院御堂御周闗之間、至于毎月十九日被修御念仏、而去四月御正日結願已了、御乳母藤三位戀慕之悲、猶不盡不絶、件事自今月継云々、及申剋□□納言隆国・俊家、中納言俊房・祐家、前大貳師成、宰相□俊参入、講師良秀僧都(脱アルカ)幅(歟)二輪阿弥陀三尊、法花経一部、布施等、中納言以下取布施、僧十口、良秀僧都・公範僧都・兼壽法眼・惟尊法橋、凡僧六口、慈懐・永豪・頼増・定懐・宗範、源大納言云、午時許退出、自宇治為除服之

依故院御念仏参法成寺御堂事

同事御正日雖結願御乳母藤三位猶不絶件事令修事

後、明日参内也、御消息云、一切経會来六月七日也、而傳
宇治一切経會不可忌五月事
聞、東北院不例御坐云、若日積御々心地重歟、今月廿九日（々脱カ）
□不可忌五月者如何、令申更不可令忌五月歟、□
可令申此由者、
左大弁来進備後吉備津宮□事
廿日、乙酉、晴、午時□弁来進、備中國吉備津宮露勘文、
神祇祐得重為使、副國解文等、其次云、日来有所労、罷行今適得」宜
今日陣定依所労不堪執筆由左大弁被示事
出、今日陣定云々、至于執筆者、猶以不堪、若被免可参聴、
実者、参宇治、橋下下車之間、顛倒損手云々、依予所催陣
辞歟
定所解歟、仍被許容、又問云、何事定哉、答、少貳時重罪
参内此間右大臣候官奏事
名宣旨也、但依有相障、自不遇以人傳耳、未剋参内、先□
右大臣着座、官奏内覧間也、去今不堪田荒奏也、右大弁候之□
□参早可被奏云々、大臣召匡房、令奏々候之由、良久□
右府奏了帰陣返行文於史□無所為事
臣参上、此間右大弁起座、史奉任捧奏文相随、奏了大臣復
大臣随宜給結緒事
座、奉任進文、返給之後、惘然無所為、大弁雖示遂不得其
大臣仰大弁令處勘事
意、大臣随宜給結緒、史退出、仰大弁令處勘事、大弁起座
仰此由、復座申云、件史未候不堪奏云々、無化陳状云々、
今日依去八幡行幸御輿折事可有七社奉幣定之事　切折歟　勅料
先之春宮大夫被告云、今日可有奉幣定、去石清水行幸日御輦由被行御卜有御祈七社奉
同定同日被定罪名先例如何事
幣云々、同日被定罪名事如何、有天気□問奉幣定日、

被定罪名、忽不得引勘者、右（大）□定於是達此由且奏
聞、大臣答云、奉幣日月内□云々、奉行件事奉幣日以
奉幣以前不可入寺中依宇治一切経事右府辞退同奉行事
前、不入寺中、宇治一切経会来廿九日者、猶可被仰他上卿
欲奏之、然者先被行奉幣定、告公卿参會、御退出不便事
也、招匡房被奏此趣、有可（マヽ）許遂行定事、法家両儒所申参
差、仍公卿僉議區分具在定文、不縷記、右大弁書定文、亥
時許事了各退出、
東北院御不例事
廿一日、丙戌、晴、未時許□（北）院、先之関白并右大臣参入、
顛頼枯橋暫可休息之由□事
関白宣、今日少増気□雅忠同案内、其旨亦同、雅忠試　誠歟
予云、顛頼枯橋□甚、暫可休息、明日参宇治由云々、早停
一切経会来廿九日若有許容者欲参由関白被申宇治事
止、因茲不参入由、以書達候宇治宮内卿所之次、令関白御」旨
一切経會来廿九日云々、若有許容欲参入者、関白宣可参者、（マヽ）
今日可被定立太子由告山陵使日時之事
申此由、必可告送也、而参入延引、仍所申也、匡房来仰宣
同陵数先例五所也今可加朱雀院若依五陵議者可除何陵哉之由匡房来仰事
旨云、今日被定立太子由告山陵使日時等、而寛仁長暦例、
柏原・深草・村上・後邑上・円教寺合五所也、至此度□
朱雀院陵若依五陵議者可除何陵哉、朱雀院御時奉行□
代々已五所除一所者可除□事
□尋可奏者、乃尋彼時記奏云、陵数如仰不記別子細代□已
五所、因茲除一所者、可除邑上歟、柏原・深草之外、依親

遠近告之歟、以寛平・延喜等不載、先之定也、匡房聞此由
帰参、春宮大夫能長依此事有召云々、
廿二日、丁亥、晴、宮内卿返事巳時許持来、昨日依送書延
宇治一切経関白参行悦申由有御返事云々
至今也、御返事云、関白参給所悦申也、廿八日何事侍乎、
右大弁持来一昨日定文事
□裝厳也云々、其由以隆宗令申彼殿、□(マヽ)右弁持□一昨日
定文、有所労不遇、謝遣、臨晩、謬不可改由、以書達大弁、
入夜持来、
廿三日、戊子、雨、晩頭播磨守今日依母氏遠忌、早旦所自宇
治退出、修小善根已了、又只今参宇治也、有事次之時、可
被申廿七日可参由也、召匡房付定文、今明内御物忌云々、
廿四日、己丑、陰、未剋左大弁来、言談良久、自此参東北院
或云一日奏間史奉任無過失右大臣被思失歟之事
云々、或云、一日奏間史奉任無過失、大臣被思失歟、而右
以不誤史處勘事不便之「
相應奇怪也云々、以□(處)勘事不便事云々、
廿五日、庚寅、陰、両三日有所労不出行、後聞、有僧綱召、
僧綱召之事
権少僧都覚尋元権律師・権律師頼範三井寺・成尊東寺・法眼信覚元阿闍梨勧修寺
並夜居阿闍梨増譽元名経譽行観僧正懈文云々、」
廿六日、辛卯、甚雨、
参宇治事
廿七日、壬辰、朝雨、辰以後雨、巳時許参宇治、入夜甚雨、
浴殿蹔下宿所大僧正外房浴室如常、晩頭又参、臨晩下宿所、今日宮内
卿奉仰傳近江守□朝臣云、被載今日行事外諸大夫不論家
司職事、不可参入者、
廿八日、癸巳、陰晴不定、巳時以後雨止、辰時参御前、行隙
一切経會習礼事
行明日習礼事、行道舞等、終頭、殿下渡給桟敷、事了余有所
労、忿就宿所、其後殿下令渡御所云々、余下宿所後、不経
今日関白被参以小御所為宿所事
幾程大雨、一切即快晴、此間関白被参、以小御所時号為宿所
云々、今日有御對面云々、其間余不参、筑前々司経衡・伯
耆前司□雖参入、聞不可参入之由抱歎退出云々、右府・
候歟
少将今日参入、
平等院一切経會在別記事
廿九日、甲午、天顔快晴、人々喜情無極、此日平等院一切経
會也、在別記、
卅日、乙未、陰晴不定、巳時許参御前、寺中例御所先之右府
今日賜禄人禄事
被候、只今被帰者、今日賜禄人禄各有差、右府被帰後相次
歎歟
帰古舊相随、未剋許着家、感欲之由、晩頭御返事来、
六　月　小
式部省愁申去八幡行幸日□所事可問同臺之由宣下事
一日、丙申、雨時々有□、申時許蔵人橘以綱来、下宣旨一枚、
式部省愁申去八幡行幸日
為弾正台切壊幕所事、可令召問弾正臺者、入夜雨下、辰時候、(マヽ)

宮内卿(経長)許送書、令申一日雨忽止翌日又降等事、
二日、丁酉、霽、府生行方持来去月々奏、加朝臣返給、未時府生行方持来去月奏加返給事
許匡房朝臣来、散日来不審、晩頭治部卿(隆俊)被来、言談数剋、
臨昏帰、
三日、戊戌、晴、今朝差遣馬助隆棟・兵部亟道清・少内記」忠差使等遣蚊松殿令仰知自殿給預之由事
長於蚊松□□之、又令仰知自殿給預由、不忌五月節由、同事不可忌五月由有殿仰仍今日以吉日下知此旨事
一日有殿仰、以今日吉日也、至于明年大将軍方也、自明後
年可始作事、
四日、己亥、陰、去一日所被下式部省解、今日召弾正少弼藤一日所被下式部省解召禅正少弼師國下之事
師國下之、仰云、問載解状少忠藤公輔・疏大江季隆等令進同事仰大外記雖令問勘問弾正官人之例申無所見之由事
申状者、日来仰大外記為長、令勘問弾正官人例、昨日来
云、先例無所見者、然而依去天喜四年余奉行例所下也、従去天喜四年依余奉行例下之事
前讃岐守兼房朝臣卒事
昨□□発不遇以人傳下之、前讃岐守兼房朝臣卒、年六十
九、故入道中納言兼隆長男、贈太政大臣道兼孫也、好和歌、
暗文字、
五日、庚子、晴、匡房来云、仰云、可献律集解一部者、乃付自内以匡房召律集解一部事
件朝臣献之、其次語権左中弁伊房朝臣・右少弁師賢随免除伊房師賢等免除之事
云々、
伊房朝臣被免者大極殿事如□□□示送匡房許事
六日、辛丑、午後大雨□今来涼気、猶如四月始、大極殿行事歟
幸伊房朝臣被免者、大極殿事如元可令行歟、其由取天気、
可示送由達匡房了、
可令注申諸司損色及納物数并累代相傳物等之由匡房□□事
七日、壬寅、晴、入夜匡房来、傳勅云々(マヽ)、可令注申諸司損色及
伊房朝臣如元可為大極殿行事之由同仰事
納物数并累代相傳物等、又可令伊房朝臣如元行大極殿事、
以勘責之間、権以隆方朝臣令行、伊房去五日被免云々、又
小安殿棟桁等事、件二事、先日下官所令奏也、
八日、癸卯、雨、隆方朝臣□(来)、傳左府(教通)御消息云、立后間諸
立后間諸國召物過差由有□□例定宛由被奏之旨自関白示行事
國召物過差由、有天気□奏前日相共依先例定宛由已了、若
依例於彼第相定了関白可被奏其由歟事
有便宜之時、以同趣可奏者、令申承由、但倩案之、自身乍
或説即関白被奏過差由之事
自由事、依先例於彼第所相定也、彼殿可被奏」左右何相和
會、或説、即左府被奏過差由被避自失云々、其次云、大極
殿事可申請事等多、而本行事被免随重仰了、昨有可令伊房
朝臣行之由仰、而今日依坎日、暫遅々、然而有其次所達
也、
召権左中弁伊房朝臣大極殿事如元仰可奉行之由事
九日、甲辰、陰晴不定、召権左中弁伊房朝臣、仰大極殿事如
元可行、并小安殿棟桁等各限一間所當云々、不可愁之由、
可賜宣旨由等、

召大外記為長問立后後入内夜本家被行勧賞之例事
十日、乙巳、晴、早朝召大外記為長、問立后後入内夜本家被
去年土左申作木諸申午侘異由出羽國出泉事令外記可勘申之由仰事
行勧賞之例也、兼燭匡房来、傳仰云、去年土左申作木諸
申歟
送午侘異由、出羽國出泉諸送申□(瑞)祥由、各可令外記勘申先
同事仰為長了事
例者、此間為長来、乃仰勅趣、又仰勧賞事、

十一日、丙午、晴、入夜□□及兼燭参内、院御方(馨子)、入夜退
参内依神今食御拝間不出御前之事
出、依神今食御拝間、無召御前云々、東宮(能長)大夫参會、退出
来月二日東宮可有御對面之事
之間同道、被示東宮御對面来月二日也、其間不審多由、於
殿上暫談話間出御、々拝云々、仍退出、大夫同被出、御殿
巽角、鋪長筵二枚、上敷半疊一枚、巽同(向歟)、御前南北立燈臺各
一本、

十二日、丁未、有雲気、終日掩覆陽景、晩景院(馨子)女房告送云、
去夜御拝之間不召御前不審思食□□院御方女房示送事
去夜御拝間、不召御□不審思食云々、令申明日可参之由、

十三日、戊甲、晴、晩頭参内、依召参御前畫御座、入夜入御之
匡房下備中吉備津宮文事
後、参院御方(馨子)、暫退出、爰匡房来、備中国覆勘備津宮(吉脱カ)文、
國解并覆勘文、神祇祐津守得重解、史生奏吉國社司四人國司守藤原定綱已下五人加署名、仰云、可令作於官者、

十四日、己酉、

「十五日、庚戌、晴、早朝召道平、令勘申院(馨子)出御日時、勘申」
召道平令勘前斎院出御日時覧関白事
云、今日時亥、乃送隆方朝臣許、令覧関(教通)白已時許隆方朝臣
伊房朝臣来申大極殿作事子細事
来答関白見給勘文之由、持来勘文、未時許権左中弁伊房朝
臣来云、勘當之後、今日初参大極殿、南北二面瓦已葺了、
東西未葺、但至于土用可令勤仕、鶏尾事可随仰者、又小安
殿桁□早問、大工光任申云、以長木相替作幾煩、而四許
丈八枚許可罷入、忽難出来之由、國々申云、若新令採者、
年月推移難致合期勤歟、工等申云、七八寸木三丈、天井上
丹波國司申来十九日蒼龍白虎楼等上棟大饗禄随仰可設之事
副打者、更不可作傾動者、又丹波國司申、来十九日蒼龍白
虎楼及廊等可上棟、彼饗禄等随仰可設者、依大極殿上棟日
禄過差有勘當、仍所申歟、答云、小安殿並楼□(上)棟日禄等、
今日勧学院六位別當以下参東宮□事
早可被奏聞也、其次云、今日勧学院六位別當以下参東宮、
寛仁別當弁説孝朝臣率学徒参行成被難事
□仁別當弁説孝朝臣率學徒参東宮、故祖父大納言行成被難
云、専別當而不可参云々、今日背祖父難、有憚参入、仍申
障云々、又先申関白已了、関白命云、聞彼時有此難之由云
参内奏立后宮司等所望人々交名事
々、□□酉時参内、此間主上渡御(マヽ)々院御方、暫還御、参御
前、招容之次、奏覧立后宮司亮以下少進以上望人々交名、
書出一帋所奏也、御覧了無左有仰、臨期□(俊房)歟、兼燭之後、勅使頭
中将基長朝臣・宮内卿(経長)・左衛門督等参、是参候春宮、差
使告送勅使参入由、此間前大貳師成卿参入、言談良久也、

大納言信長・宮内卿（経長）・左衛門督（俊房カ）家・小野宮中納言祐家・藤中納言
勧学院衆参東宮於中門外再拝無禄之事
経季・左大弁泰憲・右大弁経信等参入自東宮、人々語云、勧学院衆
参東宮、四五十許人於東中門外再拝退出、無給禄事」云々、
立后勅使頭中将基長□□院事
于時宮内卿遇勅使、還参啓事由、御簾前廂庇立燈臺一本、
敷高麗帖一枚、東西妻、其上敷東京錦茵一枚、宮内卿引勅使基長
朝臣着簾前座、申御消息訓立后事也、此間宮内卿取禄、女装束一
頭房卿於陣参九日令勘御高陽院日時之事
襲授之、勅使受之退出、至于南廊拝随便宜也、左兵衛督頭房
於陣（勘脱カ）令来十九日遷御高陽院行幸日時云、（々脱カ）又有行令申云、彼
大将軍有癸方随遊行可忌三方之由有行申之事
間大将軍遊行北方、而高陽院自御所當癸方、随遊行尚可被
遊行只忌正方之旨道平申事
忌三方也云々、道平申云、遊行只忌正方、不忌三方之上、
光栄・吉平可忌一方□入頭然也云々、仍就道平説被勘日時
前斎院馨子出御下官上東門家事
云々、此間関白御使一両度、仍遅引云々、亥時院馨子出御下
用宇治殿糸毛御車事
官上東門宅、道平奉仕御反閇賜禄、御輦糸毛御車用宇治殿牛、
前駈関白被奉事
前駈関白被奉、女□車（擯榔毛）十両之中、第一々両内、女房四
人、二車以後本所輦御車於階、次上達部饗設西渡殿、宮内
前駈殿上人給禄事
卿以下着之、前駈殿上人十二人・四位六人・五位四人・六位
御送内家女□□事
二人賜禄各有差、御送、参内、女房四人・掌侍二人・命婦
以新内印初被行位記請印之事
二人禄各有差、並在別、内女房今度帰参云々、後聞、今夜

以新内印初被行位記請印、位記一通八幡俗別□従五位上紀兼貞去三月行事賞、上小野宮
中納言祐家依初請印、可有他位記云々、其後位記請印之後、
位記請印後不奏之上卿祐家卿失錯多々事
不奏之云々、此間上卿失錯尤多云々、
内御書使右少将家賢参入事
十六日、辛亥、晴、申剋内御書使右少将家賢参入、申其由、
敷座於西又庇簾前高麗端畳一枚東京錦茵等、宮」内卿・左衛
門督・少将師忠朝臣・忠□朝臣・敦基朝臣参會、居酒肴有
一両巡後有御返事并禄事
一両巡、臨晩、賜御返事禄等女装束一具、帰参之後人々退出、権
八省楼上棟日禄過差有禁制至于例禄可給事
左中弁伊房朝臣来云、八省楼上棟上日禄事、奏聞□仰□□
差禄所被禁制也、至于例禄有何事乎、小安殿事慥又々問工
等可一定之者、
十七日、壬子、晴、早朝外記道定□□春宮大夫、仰今日可有
来十九日高陽院行幸依御物忌延引之事
陣定、可催□諸卿者、令申障了、午後雷雨乃止、雨不快下、
左兵衛督云、十九日遷御高陽院行幸延引、依御物忌也、来
人魂出自御手水間飛去之事
廿一日云々、後聞、人魂出□御手水間飛去、御卜御慎甚重
云々、
十八日、癸丑、晴、秉燭匡房来云、明日可参者、是女宮賜年
官次事云々、申一両日煩咳病由、
八省楼等上棟依所労不参事
十九日、甲寅、晴、今日巳時青龍白虎両楼并壇上廊等立柱上

梁、依咳病不参行、大納言俊家・中納言経長・参議泰憲参入由、行事弁、未時(マヽ)許伊房朝臣来觸、答早可奏之由、未時東三条修理當大将軍遊行方如何之由右府示行事許右府以定俊有消息云、来月十日欲渡東三条、企修理事之處、道平令申云、自去十七日大将軍北方遊行、自四条宮大臣被住四条宮當彼方、而思失不申其由、猶可被忌犯土也、驚此言重問道平、又尋有行之處、其□前後無一定為之如何、答問云、遊行方間不論新舊可忌犯土事遊行方之間、不論新舊可被忌犯土、又云、今日有召参内、□宮達或賜年官或叙品事可有□右府示行事宮達或賜年官、或叙品云々間如何、答、年官□□只被奏勅書之叙品女叙位、入夜右府□被示送云、女一宮賜年官、代女一宮給年官氏人可申慶給事氏」人可申慶云々、若可立歟、答云、氏中一族所立、或又不論親疎皆申之、或雖他氏親昵者相加云々、此間可被随形勢也、暁左兵衛督(俊房)来語云、女一宮叙一品、賜年官年爵、賜右大臣依天気申一宮慶之事一品封、次々宮叙品、右大臣依天気申一品宮慶云々、他姓□」人源中納言資綱加之事人源中納言資綱加之云々、其後頭中将基長叙三位陽明門院御春宮大夫□頭中将基長叙三位之事時□被大夫讓云々、兵衛督所奉也、権左中弁伊房朝臣・左近中将實季権左中弁伊房左中将實季補蔵人頭之事朝臣補蔵人頭云々、来月十日女院新院行幸延引云々、

廿日、乙卯、晴、

廿一日、丙辰、晴、早朝贈書於右府、使還来云、丑剋許被参宇治依有御霍乱気右府夜中被参之事宇治了者、乍驚又贈書、申剋許還持来返事云、昨日晩頭有御霍乱気云々、仍所参、然而参着之間宜御□□(今カ)朝□□(如)依仰晩可帰、依有行幸云々、依日来咳病今夜行幸申障、而早□□季来仰云今夜行幸必可供奉之事朝風聞右府参宇治由、為両将不供奉行幸企参入之處、依此御返事□(停カ)参入已了、□後蔵人為季来傳仰云、今夜行幸必可行幸高陽院事参者、若是不知食右府帰洛歟、然而令□(申)相扶可参之由、兼燭参内、時剋戌一点云々、関白及□大臣・大納言信長卿・能長卿・中納言俊房卿・経季卿・資綱卿・参議左大弁泰憲卿・御竈神上中納言資綱聴帯劔之事宗俊卿・資仲卿・良基卿参入、御竈神上、中納言資綱卿聴帯劔云々、自故民部卿長家大宮第遷御高陽院也、出御陰陽頭賀茂道言奉仕御反閇云、(々脱カ)自大宮北門東西(マヽ)行、自大宮大路北折、至于郁芳門大路東行、入自高陽院西門無反閇、下御南殿、右府以下着右近陣西中門南」、予起座退出之、参殿上、関白出會、関白辞左大臣可申任大納言信長卿之由可申宇治之旨被示付事暫語示宜、近来参宇治者、可申辞左大臣、可申任大納言信長卿之由、承御返事可奏聞者、答申云、只今忽不可参、但有仰者可参也、又宣申付已了参入、在雅意、余則退出不知後事、件院北對為御在所、殿上在西方、源中納言資綱供奉、竈神□授帯劔云々、

廿二日、丁巳、晴、後聞、右府被止東三条修理之間、觸犯土
已了、今日大将軍還南、明日土用間憚日也、仍競労觸犯土
事、今日畢其功云々、
参宇治事
廿三日、戊午、晴、具左衛門督参宇治、卯終道途首歟、巳終参着
大僧正房、先着宿所浴室、俄頃参御前、午終退下宿所間、宮内卿・
右中弁會来候云々、申時許又参御前、酉剋帰京、秉燭之後
着、
来月七日為参宇治蓮花會自今日止服薬事
廿四日、己未、陰、自今日止服薬非、来月七日為参宇治蓮花
會也、止薬後経二百七日可参者、法成寺起三七日云々、晩
匡房来請依仰余賀雨詩事
頭匡房朝臣来、語内裏動静、臨昏帰、依仰請□賀雨詩了、
廿五日、庚申、晴、早朝近江守憲輔朝臣来、頃之帰、巳時許
□由明日遷御之後可出御南殿可賜扇之由思食其儀如何事
匡房送書云、今日可参者、令奏晩頭□参之状、日没参内、
有種々勅命、就中明日遷御後可出御南殿、可賜□由所思
食也、其儀如何、召府年預府生助友、先日所申明日舞師料
蛮繪布出来歟如何、申云、依一日申年預将少将□□即経奏聞雖
被催難相叶者、即自家給舞人料布並鴨頭草移□本来四人可
候也者、借随身手胡籙、又給之、
将曹武吉持来今日旬番奏簡加朝臣字返□事
廿六日、辛酉、晴、□剋、将曹武吉持来□□奏簡加朝臣」
同□為躰事
字返給、其管檜簡歟板長四尺、上廣六寸、下五寸、上厚四分、
下二□(分)、上円下方、大略如笏面、方一堺、右近衛府謹奏、
一字引下云、應供奉今日上番以下近衛□□□一字
引上合無他字、次堺番長以下七人、次七人合五堺、人数同上、
第五堺下空所二許人、裏當五堺程年号月日、其傍書云、
内大臣正二位兼行大将源、此日去廿一日遷御高陽院之後始
雅忠暫告可好休息之由事
出御南殿、余不参、近来雅忠告云、頗頓尤甚、自然橋所可
慎也、暫可好休息也、自去月比非大事之時□内歟□
之次奏此由、有許容也、午時左衛門督・左兵衛督来向、即
参内、□日始宮御方御装束、
俊房来語昨日旬事々
廿七日、壬戌、晴、巳剋許左衛門督俊房入来、語昨□(日)旬事、参
入人右大臣・大納言能長・□(中)納言経長・俊房・隆俊・経季・資綱・参議泰憲・能
季・経信・良基・隆綱・従二位師成・従三位基長等也、□
左□将源俊明朝臣・右近少将家賢・侍従右馬頭資宗朝臣、
右大臣奏官奏、未時出師御歟、厨家御贄無庭立奏禄事、有番奏
賜扇音楽等事、供膳之間大臣在四種、次達進歟物所御菓膳之由
被催、而行事蔵人匡房、采女等申先可供素餅由、遅□有行
事難渋之由云々、件事前後不定也、可随上卿仰歟、近代多

近代進物所御膳供御飯之後供之事
供御飯之後、供進物所御膳歟、□左俊明朝臣賜扇之間、右
賜扇間右大臣起座乍把笏以片手取扇事
大臣起座、乍把笏以片手取扇、能長卿・経長・同□俊房卿・
能長卿以下人々挿笏以左右賜扇抜笏復座之事
隆俊卿・資綱卿起座、挿笏以左右賜扇、抜笏復座、中納言
経季卿及参議以下皆挿笏取之云々、此間事不見不慥、以傳
説記定有相違歟、出居次将左俊明右家賢参」着、有示之時
楽歟
如之、
上東門院自去五月御不例今日御蛭食事
今日上東門院有御蛭食事、自去五月御背腫御、医師□忠不知
治歟
何事、只申□令給之□、更々無減気、頗有増気云々、左府
被参云々、仍巳時許参□院、此間有件事、頃之事□許云
々、其後血不快出、依右府召雅忠聞此由、無別事、血凝之
時如此云々、良久□大臣参入、数剋之後於左府宿所差膳、
太子謁見未習拝舞可教喩之由有勅之間関白示行事
右府余相加、左府曰、今日従此参東宮焉、一日主上仰云、
今日於右近馬場有帯刀試之事
太子謁見未習拝舞、可教喩其事也、仍所参也、今日於右近
馬場有帯刀試、勅使宰相能季卿・権亮師忠者、又於宮廳賜
臣歟
兵杖、亮経平朝着云々、
旬日右大臣供御四種之後可供進物所御菓等之□被催事
或人云、右大臣案供御四種、次可供進物所御菓等、仍被催
蔵人匡房及采女等存御飯之後可供由達行之事
行事蔵人匡房及采女等存御飯後可供之由達行云々、又賜扇
賜扇之間天暦九条殿乍持笏以右手賜之□事
之由、天暦三年五月一日旬、九条殿乍持笏以右手賜之、西
西宮殿以下挿笏以左右手賜之云々事
宮殿以下挿笏左右手賜之云々、仍昨日右府随九条殿御儀由
云々、左衛門督俊房以下治部卿等隆俊以下如西宮殿儀云々、彼
見九条殿記挿笏被賜扇歟之由見事
三年記在西宮本書四月奏、余案之、西宮天暦三年記如之、
但九条殿部類記云、公卿取笏起座、文亮歟挿笏□□取笏復座
云々、此記不□自他、爰知彼殿挿笏被賜□□不同説者、可
依彼殿御日記歟、扇拝東面北上異□(位カ)重行云々、或説参議以
上列侍従□未知何□、
□位記請□(印)源中納言資綱為上、抑去十五日擇吉日、中納言
中納言祐家□□印位記不奏之仍不出仕之事
家祐□請印事、其請印□奏聞□、仍擇日今日□□
請印云々、彼中納言祐家依此事不出仕云々、」

延久元年右大臣俊家公記

寛永十八年六月一見了右大臣〔花押(道房)〕